

2018年度事業報告書

特定非営利活動法人IMAGINUS

1 事業の成果

今年度は、広島で土砂災害が起きたため、いくつかの計画した事業は実施に至らなかったが、他方でいくつかの新たな事業は展開された。国内事業としては、まず、フィリピンにてスタディツアーを開催し、現地学生と日本人学生のチームによる課題解決のためのプロジェクト提案が行われ、協働の学びの場が提供できた。次に、災害時ボランティアコーディネート事業部を中心に学生チームが結成され、2018年7月に発生した広島土砂災害の復興支援活動を行った。海外事業としては、フィリピンにて地元の人々の収入向上プロジェクトを継続するための拠点が作られた。そして一時縮小したインドのプロジェクトがJICAの草の根技術協力事業に採択されたため、来年度からの活動準備が進められた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額 (単位：千円)
人材育成事業	スタディツアー フィリピンのネグロス島とインドにてスタディツアーを実施した。フィリピンでは現地学生と日本人学生がチームを結成しフィールド調査を通して課題分析を行い、デザイン思考を用いて課題解決のためのプロジェクト提案を行った。	18年 9月	インド	2名	参加者5名	858
		19年 2月	フィリピン	3名	参加者10名	
	インターン受け入れ インドでの事業とフィリピンでの事業においてインターン生を受け入れた。また、フィールド調査の指導ならびに助言を行った。	4月 6月 7月 8月 9月 10月 2月 3月	フィリピン フィリピン フィリピン フィリピン インド フィリピン フィリピン フィリピン	2名	インターン生 4名 2名 1名 2名 2名 1名 1名 1名	
	古民家を活用した学び作り 古民家を改修した図書室スペースについては、木金土の10時～15時で開室し、地域内外の方々が利用。サイエンスカフェや味噌づくり教室など、年齢や所属に関わらず学び合えるイベントも開催された。また、蔵を改修して“だれもが使えてだれもが学べる”ことをコンセプトにしたモノづくりスペース “つ	基本 木 金 土 随時	国内 (広島)	1名	多数	

	くれば工房”を開設予定（2019年5月にオープン）。改修作業では近隣の大学の学生が中心となり活動した。					
国際協力事業	<p>児童保護事業 インド西ベンガル州ニュージャールパイグリ駅周辺の女兒を保護するためのシェルターの継続運営。同時に職業訓練を実施するための設備投資を行い、製品の販売を開始した。しかし今年度はまだ十分な収益を生むまでには至っていない。</p>	通年	インド	現地スタッフ2名 日本人スタッフ1名	施設利用者数延べ1000名 職業訓練利用者約30名	<u>1, 171</u>
	<p>村落開発事業 フィリピンネグロス島において経済的に厳しい状況になる農村家庭を対象とし産品開発を行った。現在はトウモロコシ茶とミサンガを販売している。</p>	通年	フィリピン	現地スタッフ2名 日本人スタッフ1名	産品開発を共にしている 現地の人20名	<u>120</u>
	<p>研究活動 インドのプロジェクトサイトにおけるフィールド調査結果が書籍「発展途上国の困難な状況にある子どもの教育」にて出版された。（日下部達哉、2019年1月出版、184頁～203頁）</p>	1月	国内	1名	読者	<u>0</u>
ボランティア活動事業	<p>災害時ボランティア活動 広島で起きた土砂災害の復興支援活動として初期のボランティアセンター運営補助、泥掻き支援、学生ボランティア派遣、寄付を募って現地へ物資の供給を行った。</p>	通年	国内	3名	支援した被災者の方	<u>296</u>
上記事業に関連した情報提供	<p>団体ホームページの運営 Facebookを通じた情報発信</p>	通年	国内	2名	ホームページ、Facebook閲覧者	<u>0</u>
その他の事業	実施なし	—	—	—	—	<u>0</u>